

# 注 意 報

茨城県病虫害防除所

平成 26 年 3 月 14 日

## 病虫害発生予察注意報 第 3 号

**県西地域でイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率が高くなっています。**

**育苗箱施薬によるヒメトビウンカの防除を徹底しましょう！**

### [発令の内容]

作物名 : 水稲

病虫害名 : イネ縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)

発生量 : 多い

発生地域 : 県西地域

### [発令の根拠]

- 平成 26 年 2 月～3 月に水田畦畔等から採集したヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス (以下 RSV) の保毒虫率 (ウイルスを持っている虫の割合) を調査した結果, 10%以上の高い値を示す地点が多かった (表 1)。保毒虫率が 10%以上の地域では, イネ縞葉枯病が多発生する恐れがある。
- 平成 25 年 8 月の水田調査で, 県西地域においてイネ縞葉枯病の発生が多い地点が確認された (データ省略)。また, 平成 25 年 10 月～11 月に県内のヒコバエ (再生稲) におけるイネ縞葉枯病の発病株率を調査した結果, 県西地域を中心に発病株率の高い地点が多くみられた (データ省略, 平成 25 年 11 月 26 日発表 病虫害速報 No. 6 参照)。

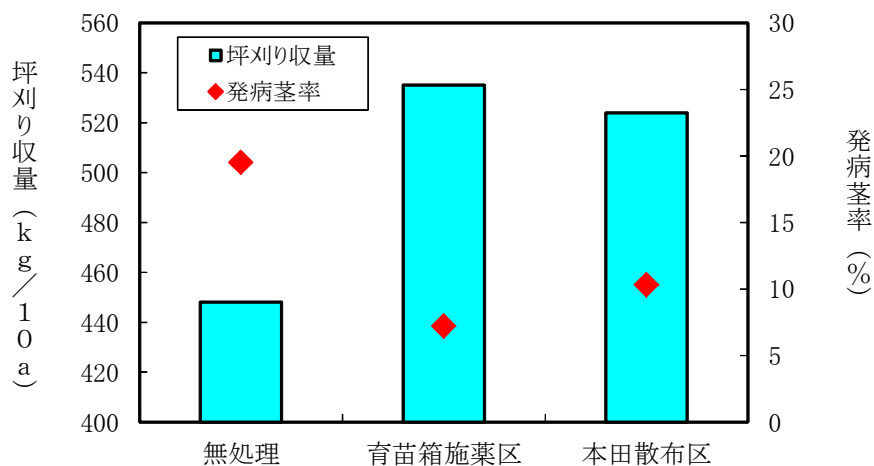
表1 ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のRSV保毒虫率 (ラテックス凝集反応法により調査)

地点	保毒虫率 (%)				
	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	
筑西市	二木成	—	17.7	17.7	<b>21.9</b>
	野殿	3.0	15.1	15.1	<b>12.5</b>
	西方	5.4	14.0	20.3	<b>18.7</b>
結城市	小田林	—	—	—	<b>16.7</b>
	大谷瀬	0	2.1	4.7	<b>3.1</b>
	新宿新田	—	—	7.8	<b>6.2</b>
下妻市	大宝	—	—	—	<b>11.5</b>
	中郷	—	—	—	<b>15.7</b>
つくば市	大形	0	1.0	3.7	<b>6.2</b>

※検定月日 : 平成26年3月7日, 11日, — : 未調査

### [媒介虫の生態と防除対策]

- イネ縞葉枯病は, ヒメトビウンカ (写真2) がRSVを媒介することで引き起こされるウイルス病である。ヒメトビウンカは越冬後, 4月上旬頃から麦畑に移動して増殖した後, 6月上旬頃から水田に飛来する。イネ縞葉枯病が多発すると, 減収するため (図1, 写真1), ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のRSV保毒虫率が高い地域では, 田植え時にヒメトビウンカ防除を目的とした育苗箱施薬を行う。防除薬剤については表2を参考に選択する。
- 麦畑でヒメトビウンカの発生が多い場合は, 育苗箱施薬に加え, 6月下旬～7月上旬に発生する幼虫を対象に本田防除を行う。防除所では, 4月上旬～6月上旬にかけて麦畑におけるヒメトビウンカの発生量調査を行うので, 今後の情報にも十分注意する。



※5/17 移植で、育苗箱施薬区は移植当日に処理した。

※本田散布は7/2に薬剤散布を実施。

※発病茎率は8月の本田における発病茎率。

図1 ヒメトビウンカ防除の有無とイネ縞葉枯病の発病状況  
および水稲の収量との関係（平成25年茨城農総セ．農業研究所調べ）

表2 イネのヒメトビウンカを効果的に防除できる主な育苗箱施薬剤  
(平成26年3月10日現在)

薬剤名		殺虫剤の成分名
殺虫剤	アドマイヤーCR箱粒剤	イミダクロプリド
	ダントツ箱粒剤	クロチアニジン
殺虫殺菌剤 <sup>1)</sup>	スタウトダントツ箱粒剤	クロチアニジン
	ブイゲットスタークル粒剤	ジノテフラン
	ロングリーチ箱粒剤	
	デジタルコラトップアクタラ箱粒剤	チアメトキサム
	フルサポート箱粒剤	イミダクロプリド + スピノサト

1) 殺虫殺菌剤は殺虫剤のみの成分名を記載した。



写真1 縞葉枯病による  
分げつの枯死症状



写真2 ヒメトビウンカ（雌成虫）  
(写真：茨城農総セ．農業研究所提供)